



完成パース (全景)

ナショナルハートセンター・シンガポール建設工事



清水建設株式会社 国際支店 シンガポール営業所 工事長

柴田 武

Takeshi Shibata

プロジェクトの紹介

今回紹介するナショナルハートセンター・シンガポール建設工事は、年々需要の増す心臓疾患治療に対応するため、心臓病専門の大規模な先進医療施設を建設するプロジェクトです。

発注者はシンガポール厚生省。設計者の四社は全てシンガポール国籍の会社です。建設地は、金融マーケットの中心及び高層ビル群で有名なセントンウェイに近接するシンガポール国立総合病院（通称SGH。シンガポールの由緒ある政府系病院のひとつ）の敷地の一角にあります。新しい建物には、多くの診療部門、外科デイスーパービス部門、研究開発部門がひとつ屋根の下に揃います。

当社は、二〇一〇年十一月にこのプロジェクトの総合評価方式入札に参加しました。入札価格は二番手でしたが、品質提案及び日本国内における医療施設工事経験の豊富さが関係者に評価、期待され、受注に至りました。

建物の規模は、地下三階・地上一二階、延床約七万二、〇〇〇平方メートル。ダイナミックなウネリを持った外装カーテンウォール、各階に設けられたテラスが建物の最大の特徴です。カーテンウォールからテラスに穏やかな日差しが注ぎ込み、心地よい空間が生まれます。



施工状況

地下三階から地下一階にかけては駐車場、地上二階は受付、薬局等の共有スペースになります。主な医療、研究開発部門は、地上三階から九階にかけて配置され、地上一〇階から一二階にかけては、事務部門、将来対応スペースが確保されています。

工事の現況

当工事は、契約工期が二四カ月と大変厳しい

で伝えています。多国籍間でのコミュニケーションに難しさを感じることもありますが、全員一丸となって仕事をやり遂げたときの達成感、格別なものがあります。

おわりに

二十世紀末以来、急速な経済成長の象徴として、シンガポール政府は、マリーナ・ベイ・サンズや、リゾート・ワールド・セントーサのような巨大プロジェクトを、民間、外資と連携して次々と成功に導いてきました。その一方で、高齢化社会の到来は、シンガポールが直面する最優先課題の一つになっています。

こうした背景から、シンガポール政府は、国民への医療福祉政策として、また近隣諸国からのメデイカルツアアの受け皿として、最先端の医療施設を経済成長と共に拡張させてきました。このナショナルハートセンター・シンガポール建設工事は、当社にとって、シンガポールでは最初の医療施設建設工事になります。発注者をはじめ多くの関係者の期待に応えるために、国際支店はもとより全社を挙げた支援体制を築いて取り組んでいます。

このプロジェクトへの参加を通じて、今後のシンガポールの発展に貢献できることが、我々の大きな喜び、仕事への原動力となっています。

条件の下、二〇一一年五月に着工しました。特に断続的な降雨（シンガポールはおおよそ十一月から一月にかけて雨季となります）により、地下躯体工事はかなり苦戦を強いられましたが、その地下躯体も二〇一二年七月に完了し、現在は、地上八階の躯体工事及び地下三〜地上四階の設備・仕上工事を進めているところです（二〇一二年十一月末現在）。

我々の現場スタッフは、シンガポール、フィリピン、日本、マレーシア、ミャンマーほか数カ国の国籍から成り、共通言語として英語にてコミュニケーションを図っています。作業員は、インド、バングラデシュ、タイ、中国等の近隣諸国から派遣されており、朝礼時の安全・作業指示は、英語だけでなく、中国語その他の言語



完成パース (4階待合ロビー)

